

教科名	科目名	単位数	履修学年	区分・型(文型・理型)	全員/選択
国語	国語総合(古典)	3 (3/5)	1年	普通科普通 普通科コミュニケーションコース	全員

1 学習の到達目標

学習の到達目標	古典作品に対する興味関心を育み、読解の基礎的な能力を養う。思考力を伸ばし心情を豊かにする。言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重して、その向上を図る態度を育てる。
教科書	国語総合 改訂版(大修館)
副教材等	資料集 新訂国語図説 改訂版(京都書房) 参考書 読解を大切に体系古典文法 七訂版(数研出版) 参考書 漢文必携 三訂版(桐原書店) 問題集 みるみる実力アップ古文stage1 改訂版(第一学習社) 問題集 新装版 基礎 漢文(尚文出版) 問題集 高校国語の基礎固め(第一学習社)

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
一学期	1 古文入門 「絵仏師良秀」 (宇治拾遺物語)	4	古文に対する興味関心や親しみを持つ。 古典の学習方法と基礎的な知識に慣れる。 物語の背景を把握しながら登場人物の心理の推移と話の面白さを味わう。	古語辞書使い方に慣れる。 古典の学習の方法を学ぶ。 歴史的仮名遣い・古語・動詞の活用を理解する。	中間 考查
	2 漢文入門 「格言」 (漢文訓読のきまり) 「矛盾」 (故事成語)	5	漢文に対する興味関心や親しみを持つ。 漢文の構造や訓読の基礎的な知識を理解し、すらすら読めるようにする。 格言の意味と故事成語の使い方を身につける。	返り点・送り仮名・助字を学び書き下し文が書ける。 再読文字・否定・疑問の句法を習得する。	
	3 歌物語 「東下り」 「筒井筒」 「あづさ弓」 (伊勢物語)	6	歌物語の特徴や文学史的な位置づけを押さえながら、登場人物の心情を中心に内容を読み味わう。 和歌の修辞技法、和歌の意味を理解し、物語の中での和歌の働きやそこに表れた心情をとらえる。 基礎的な古典文法知識を深める。	地の文と和歌との関連をつかみ、和歌の修辞技法を理解する。 用言・助動詞を身につける。	期末 考查
	4 故事成語 「五十歩百歩」 「蛇足」	7	漢文訓読の調子を習熟するよう繰り返し音読する。 漢語の意味や句形をふまえて口語訳などできる。 故事成語の意味と使い方を身につける。	白文で読み、書き下し文・訓点・口語訳ができる。 否定・疑問・限定の句法を習得する。	
[課題・提出物等] 「みるみる実力アップ古文」「基礎漢文」「漢文必携」の春休み課題と1学期定期試験範囲、授業ノート、プリント類を教科担当の指示に従って、指定された締め切り日までに提出する。					
[1学期の評価方法] 定期考査、課題テスト、小テスト、提出物、授業に対する意欲・態度を総合的に判断して評価する。					

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
二学期	5 随筆 「これも仁和寺の法師」 「高名の木登り」 (徒然草)	8 9	随筆作品の特徴や文学史的な意義を理解する。 基礎的な古典文法知識を理解する。 作者のものの見方や考え方や現代生活との関わりを考える。	古典文法の基礎(用言の活用・係り結び・助動詞)を理解する。 筆者の主張を読み取り、考える。	中間 考查
	6 史話 「先從儼始」 「鶏鳴狗盗」 (十八史略)	9	歴史的背景の概略をつかみ、史話の面白さを味わう。 登場人物の価値観や生き方について考える。 たとえの内容をおさえ、句形を習得する。	時代背景を把握する。 使役・抑揚・比較・反語の句法を習得する。	
	7 随筆 「折節の移り変はるこそ」 「長月二十日の頃」 (徒然草)	10	作者独特のものの見方・感じ方について読み取る。 助動詞に注意して正確な現代語訳ができるよう注意する。	作品の背景、古典常識等を身につけつつ作者のものの見方考え方を読みとる。 助動詞の語彙を増やすよう努力する。	期末 考查
	8 史話・思想 「臥新嘗胆」 (十八史略)	11	登場人物を整理して理解する。 言葉に込められた心情を読み取る。	使役・疑問の句法を習得する。	
	9 唐代の詩文 絶句 律詩	11	漢詩の形式と表現について理解する。 朗読によって詩のリズムに親しむ。 漢字からイメージを広げ、漢詩の世界に詠まれた情景や心情を味わう。	絶句・律詩の形式や押韻や対句などの技法を理解する。	
	10 日記 「門出」 (土佐日記)	12	「土佐日記」の仮名日記文学としての文学史的意義を理解する。 助動詞の意味を正確に理解して、口語訳できることに習熟する。 表現の面白さを味わう。	接続による助動詞の意味の違いを理解する。 滑稽やしゃれの表現を味わう。	
[課題・提出物等] 「みるみる実力アップ古文」「基礎漢文」「漢文必携」の夏休み課題と2学期定期試験範囲、授業ノート、プリント類を教科担当の指示に従って、指定された締め切り日までに提出する。					
[2学期の評価方法] 定期考査、課題テスト、小テスト、提出物、授業に対する意欲・態度を総合的に判断して評価する。					

学期	学習内容	月	学習のねらい	活動の特記事項他	考查範囲
三 学 期	11 日記 『帰京』 (土佐日記)	12	『土佐日記』の仮名日記文学としての文学史的意義を理解する。 助動詞の意味を正確に理解して、口語訳できるように習熟する。 表現の面白さを味わう。	・接続による助動詞の意味の違いを理解する。 ・滑稽やしやれの表現を味わう。	学年末考查
	12 和歌 『万葉集』 『古今和歌集』 『新古今和歌集』	1 2	和歌の修辞技法を確認しながら、それぞれの歌集ごとの和歌の特長を理解し、和歌に詠まれた情景や心情を読み味わう。 文法事項や古語に注意しながら、的確な口語訳ができるようにする。 内容や修辞技法をふまえて、和歌のリズムを意識しながら首読や唱讀をする。	・三大和歌集の特色をつかむ。 ・和歌の修辞技巧を学ぶ。	
	13 唐代の文 『雑説』 (唐宋八家文読本)	2 3	たとえの意味するものを考え、作者の社会批判を読み取る。 作者の主張を読み取る。	・部分否定・受身・反語・疑問の句法を習得する。	
[課題・提出物等] 『みるみる実力アップ古文』、『基礎漢文』、『漢文必携』の冬休み課題と学年末試験範囲、授業ノート、プリント類を教科担当の指示に従って、指定された締め切り日までに提出する。					
[3学期の評価方法] 学年末考查、冬休み課題テスト、授業中の小テスト、提出物、授業に対する意欲・態度を総合的に判断して、1年間の総合評価をする。					

確かな学力をつけるための アドバイス	・解らないところは古語辞典や漢和辞典で調べる。 ・日々の授業の予習・復習を確実に続ける。 ・古文単語や基本句形を確実に覚えて使えるようにする。 ・問題集は計画的に週一、二問解くよう習慣づける。 ・プリントなどは確実にやって、弱点を克服する。
授業を受けるに当たって 守ってほしい事項	・授業を受けるに当たって、予習を確実にしておく。 ・授業中は、疑問やあいまいな点を説明すべく、積極的に取り組む。 ・その日の授業の復習をし、単語や、文法事項など確実に理解し、暗記すべきことは覚える。 ・その教材に関連したことを便覧で確認する。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	授業の予習・復習を確実にやり、授業中も積極的に発言し、熱心に取り組む。	ノートの点検や授業中の発表、取り組みの様子から評価する。
思考・判断	さまざまな古典作品を読むことで、表現の意図や特色をとらえようとしたり、心情を豊かにし思考力を育て、自分なりの人間観・社会観を持つと努め、意欲的に学習している	定期考査や小テストによって、達成度を評価する。
資料活用の技能・表現	古典の作品の舞台となっている時代の生活状態やものの考え方、習慣などを調べ、読解に役立てる。	プリントによってまとめたり、定期考査や小テストによって、達成度を評価する。
知識・理解	古典作品を読むための基礎的な知識(文法・単語の意味等)の必要性を理解し、内容を読み味わうために十分な知識を身につけている。	定期考査や小テストによって、達成度を評価する。

3 担当者からのメッセージ

古典の学習の醍醐味は、時間的な隔たりや、それによって異なる状況の中で、人々がどのように生き、社会を見つめてきたのかを文学を通して深く味わい、現代における自分自身の生のために資することにあります。よって学習が表面的な単語や文法の暗記に終わらないよう、積極的な態度でのぞむことが大切です。予習を心がけ、より深い意味での学習ができるようにしましょう。